

村勢要覧

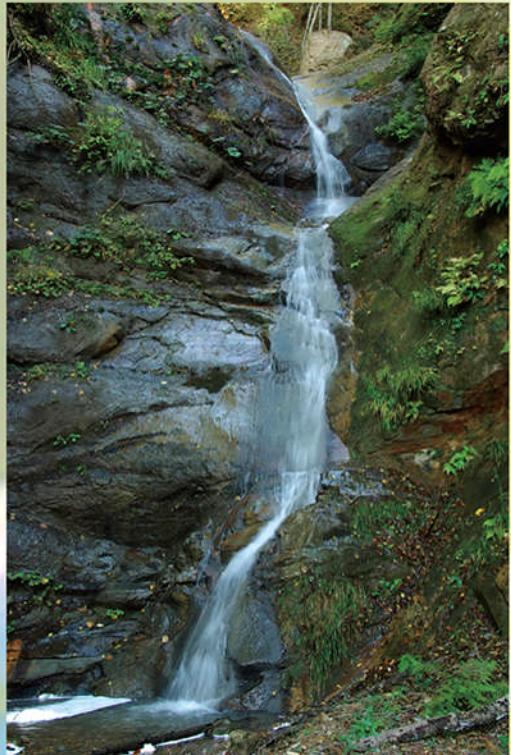
信州生坂村



春 *spring*



生坂村



夏 *summer*





秋 autumn



の四季

悠々と流れる犀川のほとり



おだやかに繰り返される四季の彩り・・・



冬 winter

やまなみに抱かれ いつまでも楽しく暮ら



生坂村長
藤澤泰彦

ごあいさつ

生坂村は、北アルプスに源を発する清き流れの犀川と渓谷美の山清路、雄大な大城・京ヶ倉の山並みと木々のぬくもりを感じる高津屋森林公園、大空へいざなうスカイスポーツ公園など、水辺と里山が織りなす山紫水明

の豊かな自然に恵まれています。

また、村を見守ってきた赤地蔵と金戸山百体観音、数百年の生命を紡いできた乳房イチョウと観音堂、戦国時代の歴史を物語る日岐城跡など、縄文のいにしえからの歴史・文化遺産の財産を背景にし、先人が守り育んできた自然・伝統との共生の精神を受け継ぎながら、人とのふれあいを大切に心豊かな暮らしを営んでいます。

地域の絆を大切に、支え合い守り育てていこうという気持ちを抱いて「犀川の朝霧のように村民の希望が翔け昇る郷 いくさか」に愛着と誇りを持ち、安全で安心して暮らせる村であり続けるために、村民の皆様との協働による村づくりを進めて参ります。

平成24年6月



生坂村村民憲章

わたくしたちは、犀川の清き流れと緑のやまなみに抱かれた、天恵の自然風土と、縄文のいにしえからの歴史と文化をもつた住民です。

先人の築いたすぐれた基盤の上に、新しい創造を重ね、うるおいと活力にみちた人間の村づくりを目指します。

わたくしたちは、生坂村民としての誇りと責任をもって、ここに五つの誓いをたて、豊かな土の香りと磨かれた技と、深いまごころが織りなす自治の郷をつくるために、力を合わせ郷土の発展を願いここに村民憲章を制定します。

- 一、自然と環境そして歴史を大切にし、調和のある村をつくります。
- 一、たがいに学び合い文化を高め、知性のある村をつくります。
- 一、誇りと喜びを持つて働き、活力のある村をつくります。
- 一、からだを鍛え温かい心を育て、生きがいのある村をつくります。
- 一、郷土を愛し若い力を伸ばし、希望のある村をつくります。

せる未来を創り出す村



【活気にあふれにぎわいに満ちた村づくり】



村の基幹産業、農業。昭和40年代まで主力だった養蚕に代わり、後継者が生きがいを持って取り組める魅力ある農業を模索するなか、現在、主力作物として栽培されているのが巨峰です。糖度の高い「山清路巨峰」は、村を代表するブランドとして全国へ出荷され高い評価を受けています。

村で生産された安全な農産物加工品の製造販売も、農業振興の新しい柱となりつつあります。ことに商品の企画、製造、販売に携わり、村おこしを積極的に展開する女性たちの活躍は見逃せません。

また、観光農園や体験農業など農業と観光を組み合わせた新しい取り組みも進んでいます。

山林の活用による林業振興や商工業の振興も併せて観光事業と連動させながら、豊かな自然環境との共生をテーマとした総合的な村の魅力の掘り起こしが始まっています。





特産品と手づくりうどんを提供する農業公社
「かあさん家」



生坂産大豆100%の
「かあさんとうふ」



「おからクッキー」と
「手づくりジュース」



おからの有効利用「おからドーナツ」



名物灰焼き「おやき」



「いくさか大好き号」による特産品の出張販売



農業体験ツアー
「一日いくさか村民」



観光農園での巨峰もぎ取り

【生涯わくわく学び続けられる村づくり】



進学競争の過熱化や学歴偏重の社会風潮に警鐘が鳴らされている昨今ですが、生坂村は子どもたちが明るく伸び伸びと学び成長する上で、理想的な環境を備えた村といえるでしょう。過疎化の影響で、児童・生徒数の増加対策が課題となっていますが、その一方、コンパクトなクラス編成により、一人ひとりの個性を尊重するきめ細やかな教育指導が繰り広げられています。

こうした環境のなか、農作業や村民行事などによる家庭内外の大とのコミュニケーションや自然、芸術文化とのふれあいを通じ、人間的な奥行きと自立心を持った個性豊な子どもたちが育っています。ふるさとの自然や産業に誇りを持ち、ふるさとの未来に夢を持てるような教育こそ、生坂教育の根幹です。





小学校の音楽会



「やしょうま」づくり教室



上生坂日置神社の秋祭り



保育園児のイモ掘り体験



村最大のイベント「赤とんぼフェスティバル」



【気持ち良くゆったり暮らせる村づくり】



地域情報については、地上デジタル化に対応するため、CATV施設の整備を行ってきました。インターネットについても、大容量で高速な情報通信サービスを利用できる環境の整備を行いました。また、急速な進展を続ける情報通信技術をめぐる動向にも対応し、情報政策を展開していきます。

防災行政無線、広報誌、ホームページ、ICNで村政情報を提供していますが、今後もこの情報提供手段のそれぞれの特色を生かしながら連携を強め、開かれた村政の推進を行っていきます。

道路、交通環境については、国道・県道・村道の拡幅、防災工事等の改良、道路環境の整備を進める必要があります。また、地域の生活道路や農道等の整備においては、住民との協働作業による「おてんま」により、修繕が行えるシステムを形成しています。

地形的に他地域への交通に支障がある地区も多くあるため、現在、幹線系の路線バスと周回デマンドバスの2種類を運行し交通弱者の足を確保しています。



ロールプレイング方式の防災訓練



耐震補強の済んだ役場庁舎



協働による道路舗装



広報誌「いくさか」

ICN自主放送 番組放送のお知らせ

生坂小学校2年生は生活科の授業で
生坂村営バス“いくりん”の歌「はしれ！
いくりん！」を作詞作曲しました。
みんなで歌います。聞いて下さい！

放送時間は次のとおりです。

生坂村コミュニケーションネットワーク (ICN)

【みんなが元気でにこにこ暮らせる村づくり】



高齢化社会を迎え、生涯を生きがいとはりあいを持って健康的に過ごせる地域づくりが、村の大きな課題となっています。

村営バス「いくりん」や周回デマンドバスの運行、生坂村デイサービスセンター・かしわ荘や認知症対応型デイサービスセンター・はるかぜの充実等により、生涯を通じて安心して快適な生活が送れる基盤を整えています。

村民の健全で和やかな暮らしを支援する健康管理センターや、平成21年8月にリニューアルした福祉センター「やまなみ荘」の充実、障がい者が安心して暮らせる環境づくり、新しい住宅の建設による若者定住への施策、災害防止や交通安全への積極的な取り組み等を通じ、人に優しい暖かなふるさとづくりを推進しています。





村営バス「いくりん」



若者定住促進住宅（日岐宮の上）



認知症デイサービスセンター「はるかぜ」



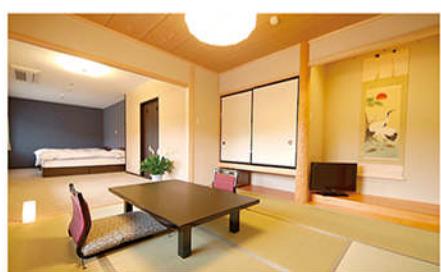
保育園児による「いくっ子消防団」の出初式先導



高齢者生活福祉センター
「ふれあいの里」



村営「やまなみ荘」



小立野区

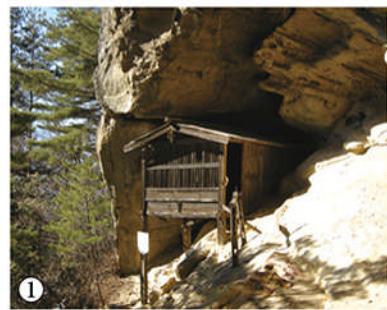
Odatsuno



小立野区は、生坂村の最南端、犀川の右岸に位置し、清水・南部・中部・北部・日影・高松・日向の7部落で構成されています。

地勢は犀川右岸近くの低地と段丘上の平地、東側の山間地に分かれています。以前は山間地から川沿いの低地まで住宅が散在していました。現在ではほとんどが段丘上と段丘下の平地にあります。

山間地には畠地が多くありました。現在は過疎化の進行により原野山林となっています。さらに近年では、平地部や川沿いに広がる水田地帯でも荒廃農地が目立つようになつたため、「小立野楽笑会」の皆さんの活動により徐々に整備が進んでいます。



【岩州薬師堂】

昔から修験者の山籠修行の場となってきた。そのため修行のときに供養礼拝する場所として使用されていた。

中に安置されている薬師如来は眼病治癒に靈験あるとの信仰から、堂内には板絵馬が多数掛けられている。(写真①)



【乳房イチョウ】

県の天然記念物に指定されており、高さ35m、周囲9m。

母乳の出にたいへんな靈験があるといわれており、母乳が出るようにと願掛けされた絵馬が31枚奉納されている。(写真②)



【小立野楽笑会】

小立野を活性化させるために会を結成した。主に、耕作されなくなった荒地を再生するため、農作物を作付、雑木林、河川堤防のニセアカシヤ等を伐採する。(写真③)



下生野区

Shimoikuno

下生野区は宮上・南部・中海道・北部・新田・池沢・睦・大道上・上の平の9部落で構成されています。

犀川中流右岸段丘上に位置し、寛永3(1626)~8年、日岐ノ郷から分村し下生野村になりました。当時は、筑摩郡に属していました。



【浦安の舞】

昭和8年の昭和天皇御製をもとに、昭和15年に皇紀2600年を奉祝して全国の神社で一斉に奉納されたもので、生坂村では唯一、現在でも夏と秋の五社祭で奉納されている。(写真②)



①



【田島堂】

古くは大登庵(現在の学校)で明和年間に大林下から現在の場所に移転した。

明治以来、阿弥陀堂・大日堂・薬師堂を集めて祭った。

大日如来座像など18体余を安置する。(写真③)



水鳥公園



②

【スカイスポーツパーク】

北アルプスを望み、絶好の地形や風を生かしたパラグライダーやハンググライダーが盛んに行われている。景色や眺めも非常によく村内も一望できる。(写真②)

日岐区は、村中南部の犀川左岸に位置し、白日・日岐1・日岐2・裏日岐・日岐団地・宮の上団地の6部落で構成されています。若者定住促進住宅の建設により村内で高齢率が一番低い区となっています。

【赤地蔵】

お地蔵さまは村人の願いを何でもかなえてくれることで有名で、願いごとがかなったときには赤い頭巾と赤い着物を奉納してお礼をした。

また、「伝説の雨乞い地蔵さま」が有名で雨乞い時には犀川まで運び水をつけた。(写真①)



①



③

【日置神社】

由緒ある神社で、正式には延喜式内日置神社という。(写真③)



④

【白日獅子舞】

今では大変貴重で伝統的で、激しく力強い舞である。(写真④)

上生坂区

Kamiikusaka

上生坂区は村の中心部、犀川右岸の段丘上に位置し、小舟・梅月・大原団地・上手・西手・旭・原・閑屋・万平・中村団地の10部落で構成されています。役場をはじめ多くの公共機関やJA松本ハイランド生坂支所等があり、村内で一番人口が多く、おてんま等も行われ活気あふれる区です。

山清路巨峰として知名度が上がっている巨峰団地の一部もあり、村の特産として有望な農業も行われています。



①



②

【大城・京ヶ倉・ヒカゲツツジ】

大城・京ヶ倉は信州百名山にも選ばれ、その登山道にはヒカゲツツジの群生地があり、村の観光スポットになっている。(写真①)



③

【ほたるの里】

減少していたホタルが確認され、区をあげて「上生坂ほたるの里公園」として整備した。(写真②)

【日置神社】

春と秋に例祭が行われ、秋には6台の舞台(山車)がえい航される。(写真③)

草尾区

Kusao



【観光「巨峰園」】9月～10月にかけ、おいしいと評判の巨峰のもぎ取り



【草尾上野の巨峰園】

巨峰は荒廃桑園対策として昭和61年から、この草尾で栽培が始まりました。現在では20haに広がり、山清路巨峰として生坂村一番の特産品となっている。(写真①)



【草尾毘沙門堂】

5月3日頃、毘沙門祭が行われる。(写真②)



【ニツ又の觀音様】

ニツ又は旧陸郷村の集落をつなぐ山道の難所であった。人馬が遭難したこの場所に祀られて、今も地域を見守っている。(写真③)

昭津区

Akitsu

昭津区は村の中部、犀川左岸の河岸段丘に位置し、梶本・下ノ田・大久保の3部落で構成されています。土地の大部分は山林原野におおわれ、部分的に畑地が点在しています。かつては、大麦・小麦・タバコ、大豆・小豆が栽培され、さらには養蚕の隆盛とともに桑の栽培に変わったものの、現在では荒廃地化が進んでいます。



【高津屋森林公園】

活性化の中心となる公園は、北アルプスをはじめとする展望が素晴らしい場所にある。(写真①)



【公園の施設】

体験交流センター(木工体験・研修室等)、コテージ6棟、バーベキューhaus、マレットゴルフ場、山菜園等がある。(写真②)



【復元された土俵】

公園の山頂部には奉納相撲が行われた遺跡があり、復元された土俵は子どもたちのふれあえる場所になっている。(写真③)



【いちょう栽培園】

10年ほど前に約1haの遊休荒廃農地を活用し、植樹したイチヨウはギンナンが収穫できる時期を迎えていている。(写真④)

下生坂区

Shimoikusaka



下生坂区は、北から込地・重・雲根・鳥原・東部・南部・木竹・入山の8部落で構成されています。

下生坂のバス停から東の岩山へ登ると標高980mの大城で、南方には京ヶ倉があり北アルプス連峰をはじめとする展望がすばらしいので、春から秋にかけ大勢の登山客で賑わいます。

また、4月から6月にはヒカゲツツジ、イワカガミ、イワヒバなども見頃となり、秋にはキノコ狩りを楽しむ人々で賑わいます。



【八幡原遺跡】

縄文前期から平安時代までの土器、石器類や装飾品など、貴重な遺物が多く発見されている。(写真①)



【写真】市民タイムズ提供

【雲根腹の神送り】

竹とわらで作った船に「奉送御腹之神」と書いた和紙を載せ、犀川に流し疫病神を追い払い無病息災を願う伝統行事である。(写真②)



【島台の松】

麻績川と犀川の合流点にあり、東電・平ダムの湛水前からの名物で、水面すれすれの岩の上に50年以上生き続けている。(写真③)



【羊の放牧】

遊休荒廃農地を中山間地域直接支払事業で復活し、雄大な自然の中で羊を放牧している。(写真④)

大日向区

Oohinata

大日向区は犀川左岸に位置し、北平・南平・中塚の3部落で構成され、海拔は両平が480から530m、中塚が600mです。

【大日向神社の秋の祭典】

夜祭には加藤清正を乗せた舞台（山車）がお宮に飾られ、昼祭には舟が南平・北平をえい航される(写真①)



【シイタケの先進栽培】

昭和30年代に竹とビニールを使ったフレーム栽培が始り、最盛期には7000万円ほどの生産額であった。(写真②)



【阿弥陀堂の百万遍念佛】

お彼岸の時期に北平の阿弥陀堂に集まり、1本の大きな数珠を右に送り室内安全を願う念佛が今も続く。(写真③)



【協働による地域づくり】

水利組合が2、営農組合が3組合あり、おてんま（協働作業）で農地・農業用施設の管理と除草、花畠等の整備を行っている。(写真④)

宇留賀区

Uruga



【山清路】

泉小太郎が母の犀龍と犀川をふさいでいた岩山を崩し、松本・安曇野の平をつくったという伝説の地である。(写真①)



【百体観音】

山清路から金戸山にかけ、江戸時代に眼病平癒のおれに建立したという伝説があり、78体の石仏と台石14、百番供養塔2基がある。(写真②)



【巡礼道の復旧】

住民有志と村が百体観音を地域の宝として後世に伝えようと、巡礼用の山道の復旧など一帯の整備をした。(写真③)

古坂区

Furusaka

古坂区は、生坂村の最北端に位置し、久保・上の平・上手の3部落で構成され、集落は犀川左岸の斜面に点在しています。

以前は多くの家々でタバコの栽培が行われていましたが、昭和62年ころを最後に栽培農家はなくなりました。戦前は養蚕も盛んでした。また、冬場の仕事として炭焼きを行い、商品として地区で販売していました。

明治後期には「喜楽座」という古坂歌舞伎も生まれ、大正時代には一層盛んになり昭和20年代まで近隣町村含め各地に出張上演されていました。

現在は村内で一番人口の少ない地区となり、また、高齢化率も非常に高くなっていますが最近では、地区住民と共に、遊休農地の復旧を目的に村から業務を委託されている「いくさか大好き隊」が協力し、荒廃農地へタラの木やワラビの植えを行なう活気のある地域づくりに取り組んでいます。



昭和31年の古坂
社秋祭り。若連の
法被新調記念。
(写真①)



【荒廃農地の復旧】
いくさか大好き
隊員と協力し、荒
廃農地の復旧に取
組む住民。(写真②)

村名の由来

遠く奈良・平安の時代、都から越後へ下る裏街道の一画にあったこの地は、「裏道の峠」という意味から出た「生坂」の名で呼ばれるようになりました。江戸・慶長年間に照明知寺の僧侶良憲が長崎より種を持ち帰った煙草が「生坂葉」の名称で栽培されるようになりました、その後、「生坂煙草」の名は全国に広く知られるようになりました。昭和32年新村発足にあたり、この歴史ある名称が村名として採用されました。

※マークはおやき販売店を表わします。





村章
昭和43年制定



村花
ツツジ



村木
かしわ

生坂村讃歌

一、山紫に 空は澄み

日岐大城や 古戦場

古人の 風の跡

われらが里を 拓きたる

祖先の偉業 受け継ぎて

進む生坂 誇りあり

二、水面に遊ぶ 水鳥や

永遠に流るる 犀川の

肥えたる土と 共に生き

人の心も 清らかに

生業興し 躍進と

希望の生坂 励みあり

三、四季美しき 山清路

やまなみ続く この郷の

史跡名勝 守りつつ

築きて行かん 新しき

世紀に向かいて 理想郷

麗し生坂 謳えあれ

生坂村

〒399-7201 長野県東筑摩郡生坂村5493-2
TEL (0263)69-3111(代) FAX (0263)69-3115
ホームページ <http://www.village.ikusaka.nagano.jp>